

ごあいさつ

事務局長 桑原敏明

念願の日本教育制度学会が創立されたことにたいし、これに携わったものの一人として慶賀の念に堪えません。

想えば、私にとって、この念願は、1960年4月、東京教育大学大学院教育学研究科に入学し、安藤堯雄先生の指導の下で比較教育制度の研究を始めて以来のものでした。実に、34年の歳月を経て、この念願がかなったこととなります。創立総会において、はしなくも事務局長の大役を仰せつかり、本学会の大事な業務を企画実行する中枢の役目を背負わせていただきましたが、この役目を果たすについて、上の念願達成の喜びの絶えざる更新を目指して頑張っていこう、と思いを新たにしております。

この「念願達成の喜びの絶えざる更新」とは、「日本教育制度学会創立趣意書」にある次のような「本学会創立の意義」を、時代の変化と要請に対応しつつ、ひとつひとつ具体化していくこと、と心得ております。

- 1 教育制度の人間生活と人類の運命における重要な意義を認識し、これまでの研究を踏まえて、その研究を体系的・総合的に発展させる。
- 2 研究的裏付けをもって教育制度改革に貢献し、教育制度改革の研究的フォローを行なう。
- 3 教育制度の専門研究者の交流を図り、若手研究者の研究を奨励する。
- 4 教育制度の学際的研究を発展させる。
- 5 教育制度の国際的研究を発展させる。

本学会創立のこれらの目的を学会のあらゆる活動を通して実現していく手だてを、会員各位のご教示とご協力により、推進していく所存です。

まず、本『紀要』が、上の目的を実現するべく、編集されることを期待いたします。

次に、学会大会の企画も同様です。実質第1回の本年度の青山学院大学大会では、①「課題別セッション」を設け、設定された課題についての共同研究計画が討議され、例えば科学研究費交付申請計画へと具体化される場といたしました。それに基づく研究成果が来年度の研究大会で発表され、次の研究への発展が討議されることを期待する次第です。また、②「自由研究発表」には、司会・討論者制の導入を試みました。本来は、発表者が、指導を仰ぎたい先達研究者あるいは交流を深めたい隣接主題研究者などに自ら「司会・討論者」を依頼して、発表登録をするというのが良いと思います。が、今回は試行形態として、実行委員会がその仲立ちをいたしました。

各位より積極的なご提言をいただき、本学会が、生まれたばかりのヒナからたくましく成長することに、事務局長として微力を傾注したいと思います。各位のご支援を心よりお願い申し上げます。